

りそな Asia時事フラッシュ

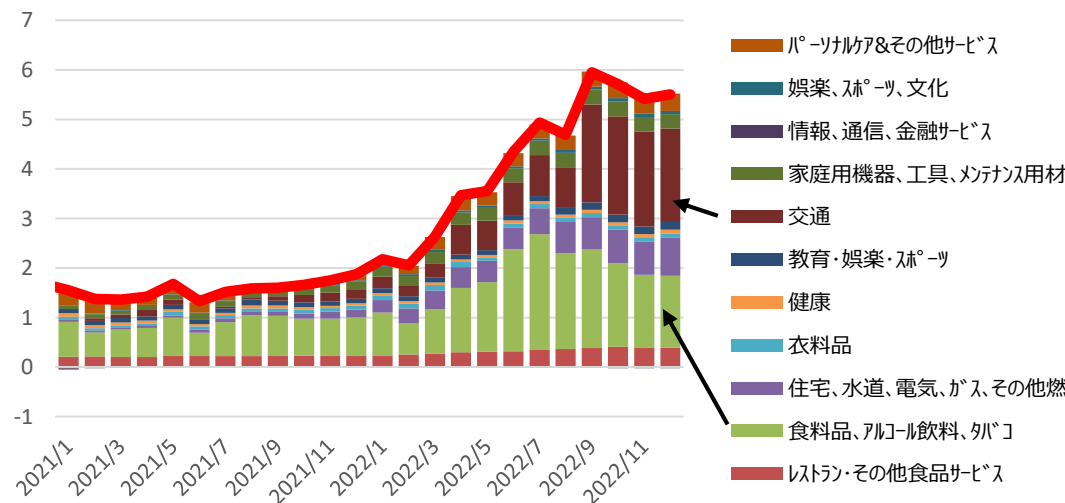
インドネシア中銀は利上げ打ち止めを示唆

2023/1/20

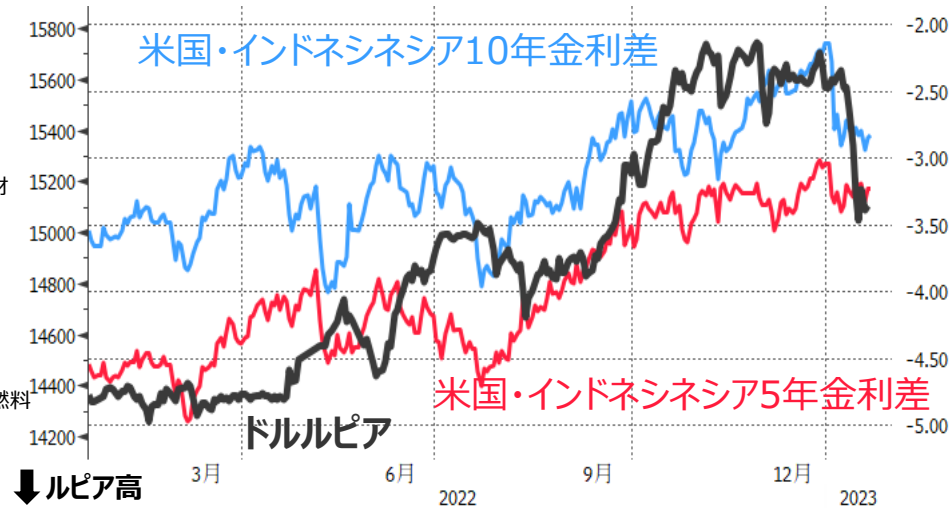
りそなHD 市場企画部
担当: 呉

- **1月18日-19日のインドネシア中銀会合では市場予想通り政策金利を0.25%引き上げた。**ワルジョ総裁は2022年8月会合以降の累積2.25%利上げは十分で、インフレ率は昨年9月に行われた燃料値上げ以降は予想より鈍化していると発言し、**利上げサイクルの終了を示唆した。**海外経済の減速懸念も今回のハト派トーンにつながった可能性がある。
- 一方で、左下のグラフからわかるように、CPI鈍化の要因は燃料を含む交通と食料品などでその背景には原油や食糧価格の下落があるが、中国の経済再開から今後コモディティ価格が上昇する可能性は否定できない。ワルジョ総裁は総合CPIが今年9月以降にインフレ目標上限の4%を下回るとの見解を示したが、見通しには不透明感が高く、**想定通りの動きとならなければ再度引締め的な方策をとる可能性には留意したい。**
- また、国内銀行が輸出企業に魅力的な外貨金利を提供することが可能となる新しい政策ツールのスキームが発表された。**国内の外貨流動性増加が期待され、ルピア高材料。**1月11日にはインドネシア経済調整相が発表した「輸出企業の外貨収益をインドネシア国内銀行に預金することを義務付ける方針」も外貨流動性増加期待からルピア高要因となっていたが、今回の政策スキームの発表により、一段とルピア高が進行した。
- その他、**今回の会合では、長期国債買い停止が発表された。**従来ツイスト・オペレーション(短期国債売り・長期国債買い)については財政赤字ファイナンスとの懸念からルピアの重石となっていた。今回の措置は、ルピアにはポジティブ材料であろう。
- **ルピアの先行きを展望すると、対ドルで堅調に推移しやすいだろう。**上述の国内の外貨流動性増加期待以外に、金利上の優位性もルピアのサポート材料になりやすい。右下のグラフは米国とインドネシアの5年金利差、10年金利差、ドルルピアの推移。インドネシアが国内の堅調な需要と中国経済再開の恩恵を受ける一方、米国は景気減速感が強まる。成長率の格差が金利差に反映し、ドルルピアを押し下げるだろう。対円では日銀の政策修正観測が残っている中、新日銀総裁の方針が見えてくる4月までは方向感が出づらいであろう。

インドネシアCPI前年比と各項目の寄与度(%)



ドルルピアと金利差



出所: インドネシア中銀、Bloomberg、CEIC、各種報道